

資料館だより

Vol. **34**
平成 28 年 3 月

特別企画展「戦後 70 年 明日の各務原市へ」
展示で「戦争の記憶」を伝える

企画展「真似ぶから学びへ」・「新しい教育への期待」
独創性の育成をゆめみる、企画展のめばえ物語

商店街の歴史

近代交通の発達と「那加駅前」地区

市民会館市民の劇場

懐かしい！各務原市で公演した芸能人

各務原市歴史民俗資料館

〒509-0132 岐阜県各務原市鵜沼西町1丁目116番地3（中山道鵜沼宿町屋館内）

TEL/FAX 058(379)5055 URL <http://www.city.kakamigahara.lg.jp/rekisi/>

展示で「戦争の記憶」を伝える

戦後70年

今回の企画展では、導入部のパネルに「10年遅いわ!」というタイトルがつけられていました。聞き取り調査にあたっては職員が、市民の方から言われた言葉です。戦後70年、終戦の年に生まれた人ですら70歳になっているのです。約20年前、戦後50年の節目に編集・刊行された「各務原市民の戦時体験」「各務原市民の戦時記録」「各務原市民の戦時写真」(以下戦時三部作とします)の時点では、まだ多くの戦争体験者が存命で、多くの戦時資料・戦時体験が寄せられました。それでも当時の編集者の一人は「全体として感じたことは、十年遅かったということだ」と述べています。20年前の時点で10年遅いということは、今年度の時点では既に30年遅いということです。今後は戦前の各務原を知る人から当時の話を直接聞くチャンスは更になくなっていくでしょう。また市内に残されていた当時の建造物や、そこに残る

空襲の爪痕などは、老朽化によって取り壊されるなどして、次の世代が目当たりになることが難しくなりつつあります。

一方、現在では歴史資料のデジタル化が進み、所蔵している歴史資料をホームページ上で閲覧できるようにしている博物館・図書館・文書館などが、続々と閲覧できるようにしています。米軍による日本空襲の計画書や、日本軍の動向に関する当時の史料から、各務原の戦前・戦中・戦後の姿を垣間見ることが出来るようになりました。また、後述する飛燕の部品など、以前の企画展以降、当館が寄贈を受けた資料もあります。

これらのものから各務原と飛行場のつながり、各務原で育まれた航空技術の発展、各務原が受けた空襲の実態を改めて検証し、これからの世代にどう伝えていくか、という観点から今回の企画展の構想はスタートしました。



▲ 鷺沼第一小学校で発見された飛燕のスピナー

「飛燕」の部品

戦後の混乱期、あらゆる物資が不足している中で、多くの飛行機部品が各務原飛行場やその周辺にあった工場から持ち出されました。持ち出された部品の中には、農機具等の代用として使用され、使われなくなってきたり、農機具等の代用として使用されたものがあります。航空機の車輪などがそれです。鷺沼第一小学校の資料館に保管されていた「記念館くず入れ」も、飛燕のプロペラスピナーが転用されたものです。戦時中、飛燕の製造に関わった工員や動員された学生たちが、日本が勝つと信じて作っていた当時最先端の航空機の部品が、戦争に負けて不要となつてからはリヤカーの車輪やくず入れになる。製造に関わった方々がどんな思いを抱いたかは定かではありません。

ほぼ原形を保った状態で発見された飛燕のプロペラスピナーやエンジンカウリングは、企画展の前にマスコミに発表されており、会場でも特に注目度の高い展示となりました。来場者アンケート結果からも、新聞記事を見て来場された方が一番多く見受けられます。



▶ 戦時史マイスターによる展示解説

戦時史マイスターと戦時体験談

昨年度の企画展で活動いただいた市民ボランティア「古代史マイスター」に引き続き、今回は新たに「戦時史マイスター」を募集し、22名の方にご応募いただきました。会場ではおそろいの青いベストを着用し、展示解説や、会場整理などの活動をしていただきました。「スタッフの方がわかりやすく説明してくれてより理解できた」といった内容の感想を多くの来場者からいただいています。

今回の展示では、構成上、戦時体験談をパネル化しませんが、戦時史マイスターの中には、実際に各務原空襲を経験した方もあり、自身の経験を踏まえて話している光景をよく見かけました。

また、会期中多目的コーナーにて各務原空襲の体験者から体験談をお話しいたり、朗読サークルに「各務原市民の戦時体験」に掲載されている体験談を朗読していただいたりするミニイベントを開催しました。いずれも事前に用意していた座席は満員になるほどの盛況ぶりでした。体験談は、一般の来場者の方からも聞くことができました。飛燕の模型を指差しながら、「わしらは、戦時中にこの部分を作ってたんだ」と懐かしそうに話される方や、航空写真を前に、一緒に来場されたご家族に当時の様子を説明しておられる方などを見かけました。



▶ 飛燕のスピナーとカウリング



▲ 赤座正行さんによる戦時体験談

各務原空襲の実態

戦時三部作では、市民の体験に主体を置いていたため、各務原空襲に関する米軍の動向については詳しく取り上げられませんでした。今回、「国立国会図書館デジタルコレクション」で公開されている米軍の作戦資料から、米軍がどのような計画をたてていたのか、またその結果をどのように評価していたのか検証を行いました。その結果、一般的に各務原空襲で使われた爆弾は1トンが最も大きいと思われていたが、米軍の資料やその関連文献の見直しから、さらに大きい2トンの爆弾が使用されていたことが確認されました。また、紙の資料だけではなく、市内の民家に今も残る機銃掃射の弾痕から、米軍の戦闘機がどのような方向から侵入し銃撃を行ったのかを検証し、パネルや模型で空襲の実態を紹介しました。



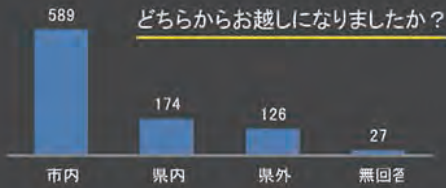
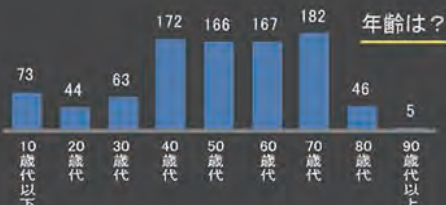
▲ 平和へのメッセージを真剣に書く子どもたち

明日の各務原市へ

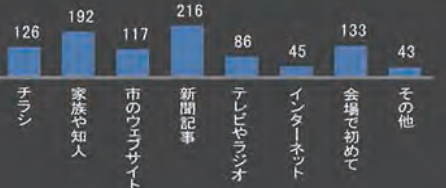
9日間という短い会期でしたが、約2500名の方が来場され、916名からアンケートの回答をいただきました。回答いただいた方の年代を見ると、40～70代の方が目立ちますが、何度も会場に足を運んで熱心に見学する中学・高校生くらいの方や、小さなお子さんを連れた方も多く見受けられました。展示物が少ない、解説パネルの文章が難しい、戦時下の市民の暮らしについてもっと記述するべきなど、反省すべき意見もありましたが、「6月22日が空襲の起きた日であったのは知っていたのですが、詳しくは知らなかったのでこの機会によくわかりました。自分の住んでいる各務原の歴史を私たちは知るべきだと思うので、今日知ったことを周りの人に話していきたいと思えます。」や「戦争は悪い事、というだけではなく、地元どう関わりがあり、人々の暮らしはどんなだったか、現代へと続く素晴らしい展示だと思えます。これを機会に、戦争について調べてみようという子供たちが増えるといいですね。」「各務原空襲の記憶を風化させないためにも、今後もこうした展示を続けてほしい」といった意見を多くいただきました。

資料調査報告書第40号の刊行

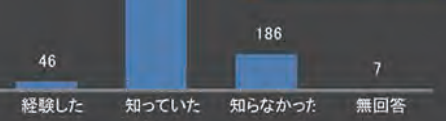
今回の企画展の内容にあわせて、展示パネルの内容に加筆・修正を行った各務原市歴史民俗資料館資料調査報告書第40号「各務原の戦前・戦中・戦後史」を刊行しました。是非ご一読ください。(引地 歩)



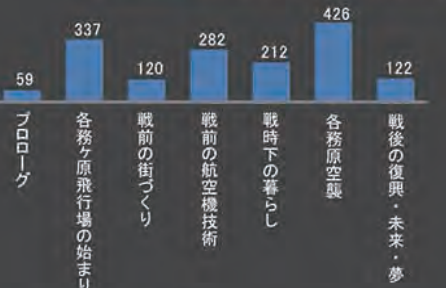
今回の企画展をどちらでお知りになりましたか?



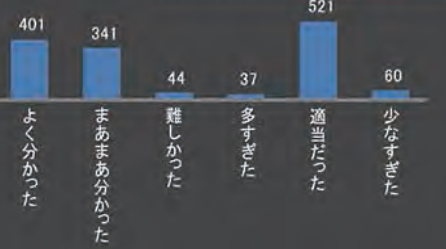
各務原空襲を知っていましたか?



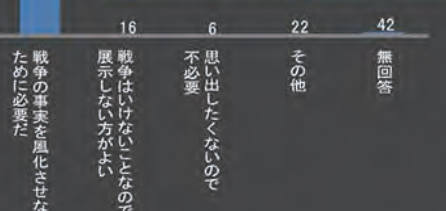
どのコーナーが印象に残りましたか?



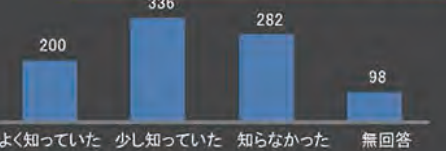
展示の内容はいかがでしたか?



戦争に関する展示をどう感じますか?



各務原市で生産されていた「飛燕」を知っていましたか?



企画展「学びと教育」
前期・後期



独創性の育成をゆめみる、
企画展のめばえ物語

「羽の親カラスがすごい勢いで飛んできました。『つわつわ、つわつわ』」と思った瞬間、バサバサという音とともに、一メートル程度の至近距離からVターンをして戻っていききました。巣立ちに失敗し、木の枝から落ちて放浪しているカラスのヒナが哀れになり、危険を承知のうえで綿棒に水を含ませ、飲ませようとした矢先の出来事でした。一瞬で状況を判断した親カラスに、私はいたく感動しました。サッカーの日本代表チームのサポーター諸氏は、ハシブトカラスは嫌いでも、シンボルマークの八咫鳥（やたがらす）は好きだと思います。私は、この出来事を境にハシブトカラスが好きになりました。

翌日の早朝、何度か「阿ー、阿ー」と鳴くカラスに気づきました。頭のめぐりの悪い私は、「阿ー」の一声が何を意味するのか、理解するのに三日かかりました。こうして、カラスが先に私をみつけると「阿ー」、私がふりむいたことを確認すると、さらなる一声とともにどこかへ飛び去ります。私が先に見つけ、サツと手をあげると、「阿ー」の一声とともに飛び去ります。この「一人一羽」関係は、巣の下の枝につかまらせたヒナ鳥が力及ばず息絶えた後も、私が勤務地を転動する、翌年の早春まで続きました。

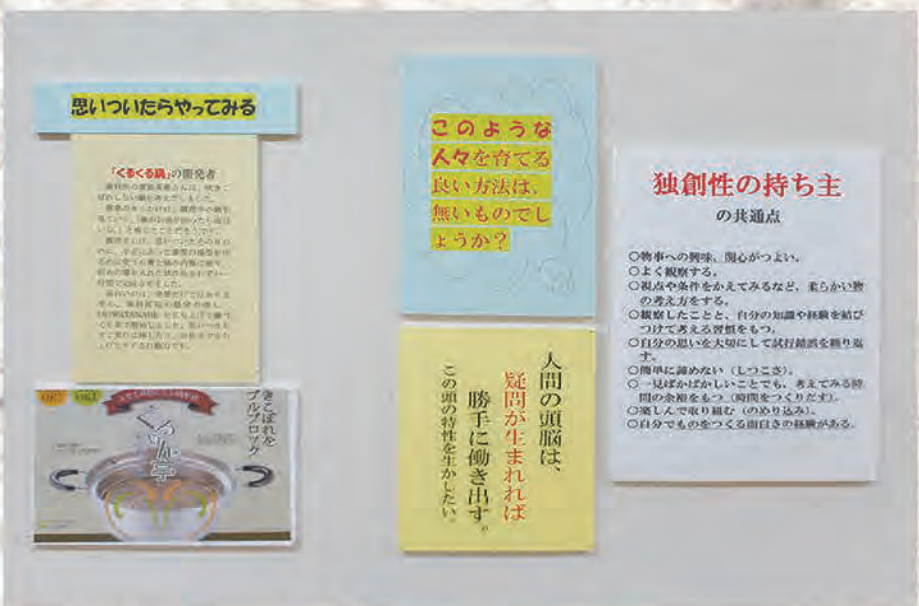
これをきっかけに、カラスに興味をもって調べ始めました。非常に面白いことが出るわ、出るわ。あるカラスが始めた行動が、ほかのカラスに真似されて、その場所から半径六十キロメートルの同心円状に広がっていく現象が見られた事も知りました。最初の「一羽は、まさにカラス社会の故ステイプ・ジョブズ（米国）アツプ社の創業者」です。

「人類は万物の霊長」といわれます。賢人たちの創造力の恩恵により、文明生活に浴しているのが現代人です。人間社会でイノベーション（技術革新）は如何にして始まるのか、という疑問が芽生えました。「ルネサンスの四大発明」とか、いやいや「東洋社会の発明の改良品にすぎない。」だとか、かまびすしい評価がなされる文明の発展過程があります。石器時代からこのかた、産業革命や明治維新以後にみる日本近代化の歩み、現在のアジア諸国のめざましい変化まで、一口でいえば「模倣と改良」の積上げの結果です。現代の人類社会は、その上に成りたっています。これまで、日本の教育制度はその成果をあげました。

平成26（2014）年10月には世界の独創性のお墨付きともいえるノーベル賞の物理学賞受賞者として、内一人は、現在の国籍が異なりしたけれども、日本人から三名の研究者が選ばれました。平成27年にも異なる部門で二名の受賞者が生まれました。



▲ 企画展のようす（後期）



▲ 展示パネルの一部（後期）

これらの出来事が私の意識に蓄積されていくなかで、生命体によるイノベーション、ノーベル賞、独創性、改良、模倣、寺子屋、学び、教育、学力低下論争、新しい学力観、OECD事務局長による日本教育への警鐘スピーチ等の言葉がキーワードとなって次々に興味関心が首をもたげ始めました。将来、各務原市からノーベル賞受賞者は出るのか、彼らを育てることは可能なのか、といった大法輪（おおほろ）のような期待も湧き起りました。

不思議なもので、興味・関心が生まれ疑問がわくと、人間の頭脳は勝手に働きだします。日頃読んでいる新聞の記事にキーワードをみつけ、自然にスクラップ作りを始めている自分自身に気づきました。テレビ番組の内容の変化や定期購読の雑誌の記事も気になりました。本屋の店頭に並んでいる書籍の題名や内容にも目がいくようになりました。製品開発のきっかけ話を始め、大学の研究者が一般向けに平易に表現した研究へのアプローチ話が、子供時代の夏休みの自由研究への取り組みと同じような段階を踏んで深められていくことを知り、大いに興味を掻き立てられました。独創的な活動をしている学問研究者、企業家、技術者、政治家、NPOの関係者、一般労働者、市民たちを見てみると、その行動の背後には共通するものがあることも気づきました。

今年度の企画展は、地味ではありますが、人格の形成にとって重要な係わりをもつ教育をテーマにしました。自主的な「学び」に対して、やや他律的な意味合いを含む「教育」という言葉との微妙な意味の違いを意識しながら、前期と後期の二回に分けて展示しました。前期は「真似ぶから学びへ」、後期は「新しい教育への期待」です。

前期は、江戸時代の寺子屋の様子と教材から、①身近な生活に役立つ内容で学習の達成感が得やすく、観察することの大切さを身に付ける初級の学び、②やや背伸びをし、繰り返し考えることによる、学習の独り立ちをわらった中級以上の学びを展示しました。

後期は、①押し寄せる西洋文明の脅威に対応するため、国を挙げて教育の近代化を図られたこと、②この近代化とは、一斉指導によって新知識を分りやすく教え込み、国民の教育水準を短期間で、一定水準まで効率よく引上げる必要があったこと、③知識財産権が非親告罪とされるなかで、関係者に訴えられなくても、公的機関によって自動的に権利の侵害が裁かれる世の中になり、模倣や改良の能力よりも独創力が第一に求められるように変わってきたこと、④独創力の旺盛な人の共通点やそのような人の育成法の試案等を展示しました。

現在、社会一般ではあまり気づかれていないように思われますが、物知り（知識量の豊富さ）と独創性や創造力は必ずしも一致しないと思われれます。長期の休みを利用して興味や関心のある事に自由に取り組ませ、何かを作り出す体験をさせることが大切だと思っっています。現在、ノーベル賞受賞とまではいかなくても、他人の気づかないことに取り組んで、多少なりとも創造的な活動を

前期展示 七月一日（水）～八月三十日（日）
「真似ぶから学びへ」
後期展示 十月一日（木）～十一月二十九日（日）
「新しい教育への期待」
開催時間 午前九時～午後四時半
開催場所 木曾川文化史料館（川島会館四階第二展示室）

をしている大半の人々は、子供時代にそのような環境で育ってきた人たちが目立ちます。

「学校の仕事に携わっています。支援の必要な子どもにかかわっています。自分で学ぶことが出来るようになるためには観察・集中・忍耐・努力、これが基礎訓練。今日、明日で子どもは変わらなるとわかってた事だけど、改めてその必要性を認識した次第でよかったです。真似ぶからできていた語源もわかっていた事だけど、再認識ができました。」（40代・女性）

「教育の原点、始まりから現在までのいきさつが解り、教育の必要性、重要性を今さらながら痛感する。掴む、わかる、できる、高めるの過程が教育の資本であるとの意を強くした。知識から知恵への変換がこれからの社会、人間形成、ものごとの確信へと広がっていくものと考えます。ご説明有難うございました。」（60代・男性）

「丁寧の説明していただきありがとうございました。孫の教育に悩む昨今、今後の指針に大変参考になりました。展示物について、明治初期の外国人は日本の教育レベルの高さに驚いたという話を聞きますが、まさに寺子屋だったと思います。私の人生とも重なる部分があり、明治以降の生きた歴史を学ぶことができました。」（70代・女性）

「川島町の史料館の展示は面白いのでよく来ます。今回も楽しく拝見しました。大昔のこと面白いですが、ついこの間の事も、こうして見ると興味深かったです。ありがとうございました。」（40代・女性）

当分館（木曾川文化史料館）は、展示環境に充分配慮しながら、「お宝」を預かって展示できる設備が整っている施設ではありません。交通の利便性からみても片寄りのある場所です。そのなかで利点が一つあります。地域の最南端にあり、木曾川を挟んだ南には愛知県の各市と隣接しています。木曾川にかかる内容を企画テーマの軸にすれば、幅広い地域から口コミで関心をもつた来館者に来ていただくことが可能です。

（上村恵宏）



▲ 寺子屋図 一寸子花里画 公文教育研究所蔵

商店街の歴史

近代交通の発達と「那加駅前」地区

はじめに

各務原市のほぼ中央部を東西にJR高山本線と名鉄各務原線が通っています。今から100年近く前の大正9年(1920)10月に、高山本線の岐阜・各務ヶ原間が開通しました。3年後の大正12年には岐阜高等農林学校が開校され、「那加駅前」と呼ばれる新しい街が形成されていきました。那加駅周辺には、今でも往時の商店街を偲ばせる街路灯や建物・看板が見られます(図1)。ここでは「商店街の歴史」と題して、近代交通の発達と「那加駅前」地区の形成・発展の歴史をたどっていくことにします(注1)。

一 近代交通の発達

江戸時代の交通体系は、徳川幕府の国内統治を主目的とした、五街道と宿駅(II宿場・伝馬制)でした。主要街道である五街道は幕

府道中奉行の支配下にあり、公用を優先とした伝馬制度がしかれていました。しかしこの制度は明治維新とともに廃止され、新たな交通体系として自動車道路と鉄道が発達するようになりまし

各地の関所の廃止の勧告が出され(明治2年・1869)、宿駅制度・助郷制度は廃止されました(明治5年)。明治9年には国内の道路を国道・県道・里道に区分するという太政官達が出されました。明治18年の内務省の国道表によると、国道は40路線あり、その7号(東京〜神戸)に旧中山道が含まれていました。鉄道では、明治5年に新橋・横浜間が開通し、明治22年に東海道本線東京・神戸間が全通しました。鉄道の開通と宿駅制度・助郷制度の廃止が同じ年というのは、近代交通の発達ということから見ると象徴的な感じがします。

各務原市には、かつては「各務野」といわれた広大な野原が広がっていました。この各務野の西半分が更木郷八ヶ村入会地で、那加地区に含まれます。この入会地が、近代になって鉄道・道路・学校・演習場・飛行場用地として、売却・貸与されていきました。

大正8年から昭和13年(1938)にかけて、入会地がしきりに鉄道用地・基地用地・学校用地に売却されました。売却先は、鉄道院・陸軍省・岐阜県・各務原鉄道等です。昭和13年以降は、それらが伸展・拡張していきます(注2)。高山線と名鉄が敷設され(表1)、人も物も以前とは比較にならないほど、移動が早くなりやすくなりました。名鉄は地域の軍事施設近くを通り、その駅名も時期により変わり、現在に至っています(表2)。

二 「那加駅前」地区の形成

鉄道の開通当時の那加駅前には人家はありませんでした。写真図2は、那加駅付近の航空写真です。中央に那加駅があり、蒸気機関車が鶴沼方面に向かって走っています。上の方に見える白い筋が、旧中山道です。道沿いには松並木と人家がぼつぼつと見えますが、那加駅前には運送会社があるばかりでした。つぎの写真は、岐阜高等農林学校(以下、高等農林という)付近の航空写真です(図3)。先の写真より10年程後のものです。学校のすぐ南の道が旧中山道で、道沿いには人家がだいぶ建ち並んできました。中央部の二本の筋が高山線と名鉄で、学校敷地のすぐ上(北側)が名鉄です。一両の電車が走っているのが見えます。

高等農林は、大正12年に開設されました。高山線の開通により、那加駅を利用する乗降客目当ての商店が駅前に建ち、高等農林の開校により、学生の下宿屋や教員の住宅が旧中山道沿いに作られて、この地域は次第に「町」らしくなっていました。そして、「那加駅前」と通称される市街地が、那加駅と高等農林との中間地帯に形成されました(注3)。大正15年の各務原鉄道(現在の名鉄各務原線)の開通は、市街地の発展に一層拍車をかけ、那加駅・各務野駅(のち新那加駅と改称)前を中心に市街地が拡大していきました。

各務原には鉄道の開通よりも早く、大正6年6月に陸軍各務原飛行場が開設されました。また大正12年4月には川崎造船所各務原飛行機製作所が開設されました。飛行場や大工場の存在が、鉄道敷設に大きな影響を及ぼすとともに、他の地域から各務原地域へと人口の流入をももたらしました。市街地も拡大し、勤め人相手の飲食店や娯楽場も開店するようになりました。

那加村(注4)は人口が増大し、農村地帯から商工業地帯に変貌を遂げ、昭和15年2月11日に町制を施行し、那加町となりました。昭和15年の「那加町制施行の村会議資料」に、区画された那加駅周辺の図があります(図4)。これを見ると、那加駅前地区が東西南北にそれぞれ直交する道路で整然と区画された市街地として形成されていたことがわかります。図2・3の写真のように畑地の広がる土地であったからこそ、このような「計画都市」を設計することができたのです。現在でも那加駅前地区の街路はこの図とほとんど変わっておらず、計画都市の面影を残しています。



図1 一六市の名を残す「市呂久」食堂の看板



図2 大正9年開業当時の高山本線那加駅前



図3 昭和5年頃の岐阜高等農林学校付近(現在の市民公園)



図4 区画整理された那加駅周辺

表1 鉄道の敷設

高山本線		
大正8年5月	1919	高山本線工事着工
大正9年10月	1920	岐阜・各務ヶ原間竣工(長森駅・那加駅・各務ヶ原駅開業)
大正10年11月	1921	各務ヶ原・美濃太田間竣工(鶴沼駅・坂祝駅・美濃太田駅開業)
名鉄各務原線		
大正15年1月	1926	各務原鉄道、安良田駅・補給部前駅間開通(新那加駅・各務野駅・高農駅・一聯隊前駅・六軒駅・補給部前駅開業)
大正15年8月	1926	各務野駅・二聯隊前駅間開業(二十軒駅開業)
昭和2年9月	1927	二聯隊前駅・東鶴沼駅間開業(芋ヶ瀬駅・羽場駅・鶴沼宿駅開業)
昭和3年12月	1928	長住町駅・安良田駅間開業、岐阜～鶴沼全通
昭和10年3月28日	1935	各務原鉄道、名岐鉄道に合併
昭和10年8月1日	1935	名岐鉄道、名古屋鉄道に改称

表2 駅名の変遷

駅名	変更	駅名
各務野駅	新那加駅(大正15年7月3日)	
高農駅	農大前駅(昭和24年12月1日)→岐阜大学前駅(昭和29年10月1日)→市民公園前駅(平成元年7月9日)	
一聯隊前駅	各務原運動場前駅(昭和13年12月1日)→運動場前駅(昭和24年12月1日)→各務原飛行場前駅(昭和35年11月1日)→各務原市役所前駅(平成17年1月29日)	
六軒駅	飛行場前駅(昭和12年10月1日以前)→六軒駅(昭和13年12月1日)	
補給部前駅	各務野駅(大正15年7月3日)→各務補給部前駅(昭和6年6月27日)→航空廠前駅(昭和10年8月1日)→三柿野駅(昭和13年12月1日)	
二聯隊前駅	名電各務原駅(昭和13年12月1日)	
東鶴沼駅	新鶴沼駅(昭和6年2月5日)	

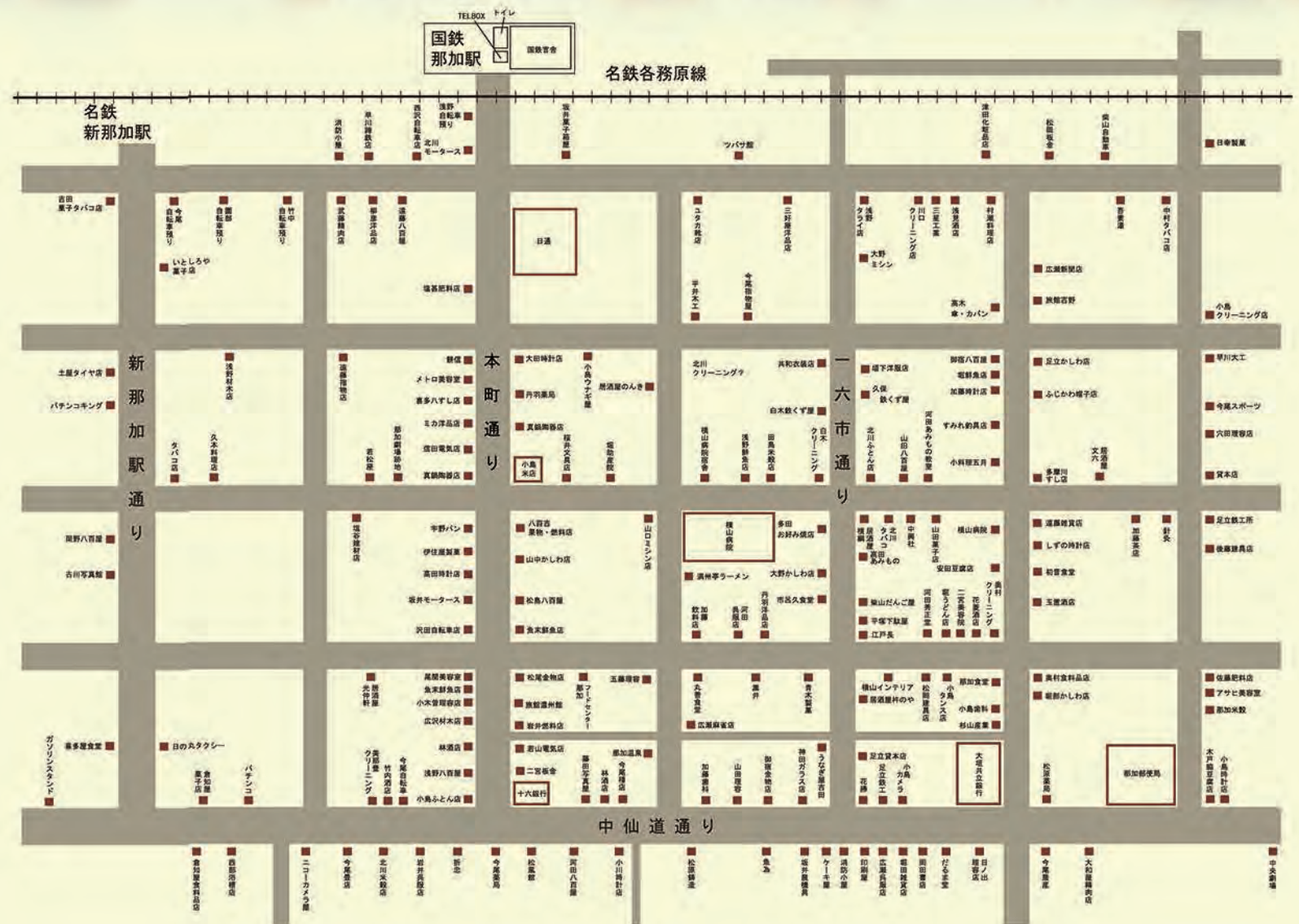


図5 昭和35年頃の旧国鉄那加駅周辺の商店街



図6 旧国道21号線沿いの那加商店街(昭和40年代)『ふるさと各務原』(郷土出版社)より



図7 桜咲く那加駅前通り(昭和10年代)『ふるさと各務原』(郷土出版社)より

註1 本稿は昨年9月3日、10日に行なった、歴史民俗資料館主催の講座「村絵図を歩く〜近代交通の発達と商店街の歴史〜」の準備ペーパーを元に構成した。参考文献として、『かみ野の風土 年中行事と交通』『かみ野の風土 産業と人物』ともに各務原市教育委員会発行に負うところが多い。尚、本文中の鉄道の名称は、現在の通称「高山線」「名鉄」を用いているところもある。

註2 『各務原市史 通史編 近世・近代』408・409ページ

註3 「那加駅前」地区とは、現在の那加善美町・北栄町・栄町・新那加町・西那加町・東那加町・白之出町・本町・南栄町・元町・桑太町にわたる地域である。

註4 明治22年(1889)に、旧東木郷八ヶ村々と影野新田・更木新田が合併して、那加村となった。

註5 『ふるさと各務原』郷土出版社。には、那加駅前から旧中山道まで、住宅地に桜の木が植えられている写真(図7)が掲載されている(47ページ)。また古来の話としては、旧中山道沿いにも桜の木が植えられていたという。

註6 昭和15年の那加町制施行パンフレットによる(『かみ野の風土 産業と人物』)

註7 図5は、各務原市文化財を守る会制作・監修の図に、若干の手を加えたものである。

三 商店街の発展

当初は住宅地であった那加駅前通り(註3)も次第に商業地として発展し、商店街が形成されていきました。那加地区で本格的に商業が営まれるようになったのは、大正になってからです。既に明治34年5月に創設された蘇原銀行は、翌年には新那加に支店を出していました。大正になると東農銀行が西市場や那加駅前を開設するなど、商業の発達を見越して、金融機関が那加地区に進出して来ました。明治末期に7戸であった商業戸数が、大正2年には40戸、大正7年には56戸になりました。大正6年12月に那加商業組合が設立されました。大正9年4月には稲葉蘭系株式会社設立され、那加駅前地区商業の代表的機関として、生爾の仲買・乾燥、運送業、倉庫業などを業務としました。昭和15年には、那加の商工戸数は454を数えました。そのほか、劇場1・映画館2・玉突8・料理屋20・カフェ18・芸妓置屋20・芸妓70等々を数え、新興市街地那加駅前には多数の娯楽施設もできていたことがわかります(註4)。

那加駅前の商店街で忘れてはいけないのが、「一六市」です。大正14年6月市場組合が設立され、桑畑であった所に40戸のバラックを建て、8月に市場が開設されました。その後組合への申込みが多数あり(144店舗。615人)、建物を増築したり、北と南に組合を分けたりしました。そして市の開催日を毎月1と6の日、月6回の定例市としました。1と6の日の市なので、「一六市」といわれるようになりました。各店ごとの名前はなく、全てまとめて「一六市」といいました。狭い道の両側に店がひしめき合い、生活に必要なものは、ここで賄うことができました。買い物客で賑わう様子は、那加の商業の繁栄を現していました。買物に行つて、ついでに食堂に寄つたり映画を見たりと、一六市は人々にとって娯楽の一つにもなりました。

活発な商業活動も戦時中は統制がかけられ、食糧増産のため一六市の辺りも畑になってしまいました。戦後再び市が開かれ、地域住民への物資の供給に大きな役割を果たしました。一六市は戦後の開市から始まったと思つている人もいるようですが、それは間違いです。近隣の町や村から、大勢の人が品物を求めて一六市にやってきました。しかし、昭和30年代後半から市は衰退しはじめ、昭和60年代初めにその営業は終わつたようです(図1)。

おわりに

一六市場の非常に狭小な道幅は、自動車交通という新たな交通手段の発達にはそぐわないものでした。このことが市の衰退の大きな要因です。また、周辺の商店街が整備されたり、新那加駅にショッピングセンターができたことも、市の衰退の原因になりました。さらに現在では、より大きなショッピングモールの出現によって、既存の地域の商店街の経営も厳しいものになっています。

今では一六市のあった通りは住宅地となり、飲食店で賑わった桑太町も静かな街になっています。昨今「地域おこし」「地域の活性化」と盛んに叫ばれていますが、そのためにはまず、自分たちの町の歴史を発掘し、記録していくことが始めなければなりません(註5)。それが、現在に生きる私たちの役目なのではないでしょうか。

(佐藤 浩子)

第10回 市民の劇場

華麗なハイファイ・セット&ハーモニーの極限美をいまここに

ハイ・ファイ・セット

昭和54年3月4日(日) 各務原市民会館

入場料: S席3,500円 A席3,000円

第23回 市民の劇場

島田祐子ファミリーコンサート

昭和56年3月28日(土) 各務原市民会館

入場料: S席2,300円 A席1,800円

第27回 市民の劇場

ふれあいの時をもとめて

さとう宗幸

昭和56年11月4日(木) 各務原市民会館

入場料: S席2,300円 A席1,800円

第31回 市民の劇場

五輪真弓'82

1985年10月5日(土) 各務原市民会館

入場料: S席2,500円 A席2,000円

市民会館開館八周年記念

森進一ショー

1985年10月5日(土) 各務原市民会館

入場料: S席4,500円 A席3,500円

加藤登紀子の劇場コンサート

1986年1月24日(日) 各務原市民会館

入場料: 2,800円 (当日は3,000円)

第68回 市民の劇場

とよみ 11月7日(日) '86

各務原市民会館

前売り券は9月22日(日)より

第98回 市民の劇場

MIHO YUI BE

3月23日(土) 各務原市民会館

入場料: 全席指定¥4,120

由紀さおり・安田祥子 童謡コンサート

あの時、この歌 パートⅦ

7月13日(土) 各務原市民会館

入場料: S席3,500円 A席3,000円

第104回 市民の劇場

荻野目洋子コンサート

11月9日(土) 各務原市民会館

入場料: 全席指定¥4,000

第118回 市民の劇場

坂本冬美コンサート

1月16日(土) 各務原市民会館

入場料: 全席指定 S席¥4,500円 A席¥4,000円

白鳥英美子 クリスマスコンサート

12/11(日) 各務原市民会館

入場料: S席¥4,000 A席¥3,000

五木ひろしアコースティックコンサート

弾き語り

6月1日(日) 各務原市民会館

入場料: S席¥6,000 A席¥5,000

昭和38年、旧4町が合併して各務原市が誕生しました。その頃から、大勢の市民が楽しめる大ホールを備えた市民会館の建設は、大きな希望の1つでした。昭和52年に、文化普及支援施設として、各務原市民会館が蘇原中央町に完成しました。「市民の劇場」が開かれ、様々な公演が行われています。

今回、演歌・歌謡曲のジャンルから、ちょっと懐かしいポスターをピックアップしてみました。

ナショナル・ライブ係10周年記念

愛と夢スペシャル

1996 小椋佳 コン서트 [ことなり]

7/19(金) 各務原市民会館

入場料: S席5,500円 A席5,000円

JAYWALK TOUR 1997

PENTANGLE

6月19日(日) 各務原市民会館

入場料: 全席指定¥5,000

五代夏子

10月25日(日) 各務原市民会館

入場料: S席5,000円 A席4,500円

米良美奈 コンサート

12月22日(日) 各務原市民会館

入場料: S席5,000円 A席4,500円

懐かしい! 各務原市で公演した芸能人

開催日	アーティスト名	タイトル	開催日	アーティスト名	タイトル
昭和54.3.4(日)	ハイ・ファイ・セット	華麗な実カヴァーカル&ハーモニーの極限美をいまここに	平成8.7.19(金)	小椋佳	ことなり
昭和56.3.28(土)	島田祐子	春休みファミリーコンサート	平成9.6.19(木)	JAYWALK	PENTANGLE
昭和56.11.4(水)	さとう宗幸	ふれあいの時をもとめて	平成10.10.25(日)	五代夏子	
昭和57.6.3(木)	五輪真弓		平成10.12.22(火)	米良美一	
昭和60.10.5(土)	森進一		平成11.5.25(火)	松山千春	「俺の人生」99
昭和61.1.24(金)	加藤登紀子		平成12.7.28(金)	大泉逸郎	「孫」リサイタル
昭和61.11.7(金)	イルカ		平成13.3.4(日)	南こうせつ	~さあ歌おう~
昭和62.10.3(土)	近藤真彦		平成14.10.31(木)	中村雅俊	One & Only
平成3.3.23(土)	中山美穂		平成14.12.11(水)	森山良子	アコースティックコンサートツアー
平成3.7.13(土)	由紀さおり・安田祥子	あの時、この歌 パートⅦ	平成15.3.6(木)	加藤登紀子	花筐
平成3.11.9(土)	荻野目洋子		平成16.1.24(土)	綾戸智絵	
平成5.1.16(土)	坂本冬美		平成17.1.23(日)	美輪明宏	人生を、そして愛を唄う
平成6.12.11(日)	白鳥英美子	クリスマスコンサート	平成18.2.26(日)	杉田二郎、伊勢正三、大野真澄、大古富士子	愛、人生、歌
平成8.6.1(土)	五木ひろし	アコースティックコンサート「弾き語り」	平成18.11.19(日)	研 ナオコ	

KOSETSU MINAMI CONCERT TOUR 2001

3月4日(日) 各務原市民会館

入場料: 全席指定 5,000円

MASATOSHI NAKAMURA

2002年10月31日(木) 各務原市民会館

入場料: 全席指定 ¥6,300円

森山良子 アコースティックコンサートツアー

12/11(水) 各務原市民会館

入場料: S席5,000円

加藤登紀子 TOKIKO KATO CONCERT

"Hanagatami" 2003

2003 3/6(木) 各務原市民会館

入場料: S席5,000円

AYADO CHIE LIVE 2004

2004.1.24(土) 各務原市民会館

入場料: S席4,000円

美輪明宏 L'AMOUR

2005.1.23(日) 各務原市民会館

入場料: S席4,500円

Acoustic Generation 2006

2006.2.26(日) 各務原市民会館

入場料: S席4,500円

NAOKO KEN Love Life Live

2006.11.19(日) 各務原市民会館

入場料: S席5,000円

平成 27 年度の歩み

歴史民俗資料の保存・調査

種別	件数	点数
資料の受入	11	190
資料の閲覧		
資料の貸出		
資料掲載許可	6	13

文化財施設の活用

施設名	見学者数	見学団体数	展示・発表会	学習・会議
炉畑遺跡	3,090	20	0	0
大牧1号古墳	41	1	0	0
天狗谷遺跡	32	1	0	0
鶴沼宿町屋館	9,152	37	22	128
鶴沼宿臨本陣	11,233	37	12	1
木曾川文化史料館	2,212	13	2	8

出前講座・職員講師派遣

実施日	派遣先	内容	人数
4月18日 土	濃尾・各務原地名文化研究会	各務原という地名	80
4月19日 日	各務原美術愛好会	山田寺をとりまく諸問題	21
5月16日 土	各務原歴史研究会	護命僧正と古代山田寺	76
5月26日 火	中央ライフ 長期講座	織田氏の尾張制覇と美濃侵攻	30
6月2日 火	鶴沼第三小学校(3年生)	昔の鶴沼	90
6月16日 火	中央ライフ 長期講座	考古学から見た城跡	30
6月18日 木	各務小学校(6年生)	各務の歴史	87
6月27日 土	ユネスコ	各務原という地名	80
7月1日 水	緑苑小学校放課後子ども教室(2・3年生)	各務原空襲について	30
7月15日 水	ふるさと楽会	山田寺と護命・空海・最澄	24
7月23日 木	コープぎふ(子ども・一般)	各務原空襲について	10
10月8日 木	ボランティアハウスひまわり会	各務原空襲について	26
10月15日 木	尾崎小学校社会科クラブ(5・6年生)	各務原空襲について	20
10月21日 水	蘇原第一小学校 6年生	各務原空襲について	177
10月22日 木	那加中学校	生き方講座 私の仕事	64
10月30日 金	駿南小学校(6年生)	大牧1号墳子供ガイド	93
2月22日 金	駿南小学校(6・3年生)	大牧1号墳子供ガイド	170
3月3日 木	ボランティアハウスやすらぎ	各務原空襲について	30
3月11日 金	ヒストリー各務野会	各務郡の古代寺院	23

特別企画展

テーマ	体験・真実・技術・復興・平和 伝えるべきこと	
開催期間	平成27年8月8日(土)～8月16日(日)	
内容	各務原市の街は、戦前に飛行場と航空機産業を中心に形成された。この街は、70年前の太平洋戦争末期に激しい空襲を受けたが、今日は速く復興を遂げている。今、各務原市だからこその言えること、誇れることは何か。戦前・戦中・戦後の歴史から考える。	
開催日	イベント名	人数
8月8日 土	戦中・戦後のレシビ	47
	特別講演会「各務原空襲とその実態」	50
8月9日 日	戦時体験談・朗読	48
8月10日 月	戦時紙芝居上演	25
8月11日 火	戦時体験談・朗読	49
8月12日 水	戦時ミニ講演会①「戦中・戦後の小学生生活」	45
	②「はばたき機から昭和20年までの航空機」	
8月13日 木	戦時紙芝居上演	35
	各務原野外セミナー(戦争遺跡見学特別編)	23
8月14日 金	戦時体験談・朗読	40
8月15日 土	地名文化研究会タイアップ講演会①「零戦と各務原」	88
	②「災害立国日本・災害地名」	
8月16日 日	戦時ミニ講演会・企画①「平和の木を育てよう」	51
	②「各務原飛行場と飛行機工場の歴史」	
参加者数	展示見学者合計：2,500人	イベント参加者合計：501人

各務原歴史セミナー(全8回)

75人

実施日	テーマ	講師
9月6日 日	近世の村とは	前岐阜聖徳学園高等学校講師 所史隆
9月20日 日	ふるさとを見つめはじめた時代	名古屋大学大学院文学研究科教授 羽賀祥二
10月4日 日	木曾川と人々の生活	一宮市尾西歴史民俗資料館学芸員 久保祐子
10月18日 日	本陣四方山話	岐阜女子大学講師 辻 公子
11月7日 土	坊の塚古墳から何が分かるか	大垣市教育委員会文化財専門官 中井正幸
12月6日 日	水辺の歴史 鶴沼古市場遺跡発掘調査速報	各務原市埋蔵文化財調査センター所長補佐 大熊茂弘
12月20日 日	尾張藩主の犬山城御成りとおもてなし	岐阜大学名誉教授 松田之利 犬山城白帝文庫 寺岡希華
1月17日 日	鷹の祭祀	岐阜県文化財保護センター主査 近藤正枝

各務原野外セミナー

実施日	テーマ	講師	人数
8月13日 木	戦後遺跡見学特別編	南山大学名誉教授 伊藤秋典	23
10月14日 水	山火事跡地の里山を歩く	岐阜県立森林文化アカデミー准教授 柳沢 直	9
11月20日 金	濃尾平野の成り立ちと水害の宿命	岐阜大学名誉教授 小井土由光	15

各種講座事業

実施日	実施日	実施日	実施日
1 5月16日 土	1 8月1日 土	1 6月10日 水	1 6月3日 水
2 5月23日 土	2 8月8日 土	2 7月8日 水	2 7月1日 水
3 5月30日 土	3 8月15日 土	3 8月12日 水	3 8月5日 水
4 6月6日 土	4 8月22日 土	4 10月7日 水	4 9月2日 水
5 6月13日 土	5 8月29日 土	5 11月11日 水	5 10月6日 火
6 6月20日 土	6 9月5日 土	6 12月9日 水	6 11月4日 水
7 6月27日 土	7 9月12日 土	7 1月20日 水	7 12月2日 水
8 7月4日 土	8 9月19日 土	8 2月10日 水	
9 7月11日 土	9 9月26日 土		
10 7月18日 土	10 10月3日 土		

子ども将棋教室(入門編) 23人
子ども将棋教室(応用編) 16人
「地域の古文書から読む歴史」 18人
みんなで地域の古文書を読む会 6人

村絵図を歩こう11人

実施日
1 9月3日 木
2 9月10日 木

その他の行事

怪談ライブIN 臨本陣	8月23日(日)	168人
芭蕉句碑拓本講座	10月6日(火)	575人
中山道鶴沼宿「姫街道ひなまつり」	3月13日(日)	29人

刊行物

- ① 各務原市資料調査報告書第39号『旧中山道鶴沼宿本陣桜井家文書Ⅵ』の刊行
- ② 各務原市資料調査報告書第40号『各務原の戦前・戦中・戦後史』の刊行
- ③ 『資料館だより』第34号の刊行

企画展

「学びと教育」をテーマにして前期(真似ぶから学びへ)と後期(新しい教育への期待)の二期に分けて開催した。

会場 木曾川文化史料館第2展示室

テーマ	「学びと教育」
開催期間	前期：平成27年7月1日～8月30日 後期：10月1日～11月29日
内容	江戸時代の寺子屋教育と、新しい知識の伝達を重視する近代教育の違い、また、独創性の持ち主に共通する特徴の展示を通して、独創性の育成が期待される、これからの学力育成について考えるきっかけ作りをおこなった。
見学者数	451人(前期235人、後期216人)



◀ 飛燕の部品発見を報じるニュース(NHK岐阜)